

国際交流基金助成事業報告書

大阪薬科大学 薬学部薬学科 4年次生 北山風太

1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受けて8月9日から8月24日の間、オーストラリアのブリスベンにある **BROWNS English Language School** にて英語を学ばせていただきました。

薬剤師の就職先には病院、薬局、企業(製薬、治験等)、医薬卸、公務員などがあり、英語を使う頻度やシチュエーションはそれぞれ異なり必要とされる英語力は様々です。

2週間という短期間ですが一生懸命取り組んで少しでも英語力を向上させたい、また留学先で様々な刺激を受けてこれから継続して英語を学ぶにあたってのモチベーションになればと思い、オーストラリアへ語学留学することに決めました。

2. BROWNS English Language School にて

BROWNS では英語以外の会話が禁止されている“**English Only**”のポリシーのもとで学習することができるということ、初日に行われるクラス分けテストにより6つのクラスの中から自分の能力に合ったクラスに分けられるので無理なく学べて生徒の満足度も高いところなどに魅力を感じてこの学校に通うことにしました。入学初日にはクラス分けテストと学校のルールや設備についての説明や学校周辺の探索などのオリエンテーションがありました。私は **Listening** や **Speaking** が特に自信がなく、先生や周りの生徒たちが言っていることを聞き取って理解することに必死だったのでなかなかうまく会話できませんでした。授業もすべて英語で行われるので、ついていけるように最初は周りのクラスメイトのしていることを見よう見真似で授業を受けていました。



写真1：クラスメイト



写真2：修業証書

先生やクラスメイトはとてもフレンドリーで接しやすく、しだいに学校にも慣れていき少しずつ英語も聞き取れ、会話もできるようになっていきました。また **BROWNS** では **Active8** という **Grammar, Speaking, Vocabulary, Reading, Functional Usage, Listening,**

Pronunciation, Writing の中から自分が苦手なものを自分で選んで自習できる授業があり、苦手克服に役立てることができました。

3. ホームステイ先にて

オーストラリアではシェアハウスではなくホームステイによる滞在を選びました。なぜならオーストラリアでの家庭料理を楽しんだり生活を共にすることによって文化の違いを発見することができたり、より詳しく現地の情報について知ることができると思ったからです。私がホームステイした家庭は 70 歳代の夫婦のほか、同じ BROWNS に通う生徒が 2 人いました。ホストファミリーはとてもフレンドリーで日本へ旅行したこともあり日本が大好きだったので親しみやすく、すぐになじむことができました。学校が休みの日には、ブリスベンを車で案内してもらい、自然いっぱいのブリスベンを楽しむことができました。オーストラリアの人たちは天気の良い日をとても大事にしているというホストファミリーの言葉通り、晴れた日には街のいたるところでサッカーやクリケット、ホッケーなどスポーツをしている人がおり、道路にはランニングやサイクリングをしている人が多く見られ、アクティブで体を動かすのが好きな国民性だということが分かりました。



写真 3：ホストファミリー



写真 4：ホームステイメイト

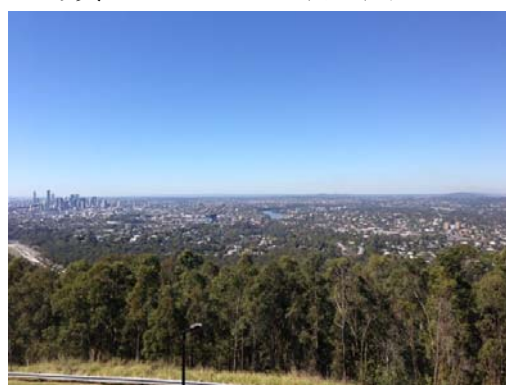


写真 5：マウントクーサからの眺め(ブリスベン)

4. おわりに

今回、国際交流基金事業の助成によりオーストラリアへ語学留学することができ、様々な貴重な体験をすることができました。私にとってひとりで海外に行き、使用する言語や文化がまったく異なる環境で過ごすということは初めてでした。予想以上に現地の人とコミュニケーションをとるのは難しく、最初はジェスチャーを使ってやっと伝えたいことが通じるという感じでとても苦労しました。しかしその分、自分が伝えたいことが相手に伝

わり、相手の考えていることが理解できた時の喜びはとても大きかったです。またオーストラリアでの生活様式はホームステイだったのでホストファミリーと様々な会話を楽しみ、現地の食生活を体験することができました。その会話の中で日本に関することをいくつか聞かれたのですが、しっかりと答えることができず、自分の国のことなのにわからないということがとても悔しく思いました。

今回の語学留学で様々な国籍の学生と交流し、考え方や文化の違いを学ぶことができました。用いる言語が異なる相手とコミュニケーションをとることは大変でしたが、国際的な壁を越えて相手と意思疎通できたことにより、自分にとって大きな自信になりました。また、自分の中で課題となることもいくつか見つけることができました。様々な国の人と交流していると、ある事にたいして自分はどのようなふうに考えを持っているかを述べることが多いと感じました。自分の考えを持つことがとても大切であり、そのために視野を広くもち、受身ではなく自分から積極的に考えを述べていくことが大事だということを強く感じました。これらの貴重な体験から学んだことを将来に活かしていき、国際交流の場があれば積極的に参加していきたいです。